小規模事業者による

「身の丈デジタル」経営活用事例

世界でデジタル技術が急速に進展していますが、中小企業白書によると8.2%の中小企業（小規模事業者に限ると14.2%）は未だ「デジタル化について何も取り組んでいない」と回答しています。

一方、同白書では、デジタル活用が進んでいない企業ほど、売上や労働生産性の低下に苦しんでいる傾向にあることも指摘（右記参照）。経営環境が厳しさを増す中、この流れはますます強まっていくと思われます。

そこで今回は、小規模事業者でも自社の「身の丈」にあったデジタル活用により、販路開拓や業務効率化に繋げている事例を紹介します。

【事例①】

yoga space
infinity

西川ちあき さん

コロナウイルスにより売上が「ゼロ」に…オンライン活用を決断

「ヨガをしている瞬間だけは、日常生活から解放されて心が軽くなるんです」

そう語るのはヨガ教室「yoga space infinity」を営む西川ちあきさんだ。西川さんは2015年に会社勤めのかたわらヨガと出会う。トレーニングを重ねるにつれ、肉体と精神が鍛えられていく感覚に魅了された。

人生の折り返し地点である40歳が見えてきた４年前、ヨガの素晴らしさをより多くの人に広めたいと創業を決意。地域の公民館やカルチャーセンターへの出張レッスンを中心に活動し、滑り出しは順調に見えた。その矢先、予想だにしないことが起きる。コロナウイルスの感染拡大だ。

「一斉にキャンセルが入り、翌日から売上がゼロになるんです。目の前が真っ暗になりました」

しかし立ち止まっていても仕方がない。そこからの西川さんの行動は早かった。

「対面レッスンができないのなら、オンラインでやるしか選択肢はなかったんです」

商工会議所からコロナ対策関連の補助金の申請支援を受け、予約申し込み機能が付いたホームページなどを作成。顧客が自宅いながらパソコンやスマホを通し、オンラインでレッスンを受けられる環境を整えた。当初はコロナウイルスが収まるまでの代替手段と考えていたが、オンライン予約の半数近くは県外からのもの。「海外在住者も３名いました。びっくりしましたね」

嬉しそうに振り返る西川さん。思いがけず商圏の広がりに繋がった。

アフターコロナを見据え

一方、現在は世の中がアフターコロナへとシフトしていることも実感している。

「対面レッスンへの回帰が強くみられます。オンラインで一度体験した人ほど、”もっと細かいところまで直接教えてほしい”という気持ちになるようです」

今後は、県内は対面・県外はオンラインと棲み分けを図っていくことも考えている。今ではオンラインで西川さんから学び、各地で創業する”弟子”も増えてきた。「将来はフランチャイズ展開も視野に入れています」

ヨガに出会って８年。西川さんの夢はさらに大きくなりそうだ。

yoga space infinity（ヨガ スペース インフィニティ）
代表　西川ちあき
富山県高岡市宝町3-9 2F オデッセイ英会話内
電話 050-3748-8858　＼LINE・Instagramでも発信中！／

▲ HPはこちら

デジタル化の取り組み４段階（参考：2022年中小企業白書）

＊段階横の（%）はアンケート回答者数の割合

第１段階（8.2%）	第２段階（34.9%）	第３段階（46.7%）	第４段階（10.2%）
紙や口頭による業務が中心でデジタル化が図られていない状態 例）手書き伝票など	デジタルツールを利用した業務環境に移行している状態 例）電子メールの使用など	デジタル化による業務効率化やデータ分析に取り組んでいる状態 例）売上・顧客情報をシステムで管理など	デジタル化でビジネスモデルの変革や競争力強化に取り組んでいる状態 例）蓄積データ活用による販路拡大など
2015 年と比較した労働生産性（下段上）と売上（下段下）の変化率			
・－ 39 千円／人 ・－ 5.9%	・－ 48 千円／人 ・－ 2.9%	・262 千円／人 ・2.8%	・824 千円／人 ・13.8%

㈱東京商工リサーチ「中小企業のデジタル化と情報資産の活用に関するアンケート調査」

【事例②】

螺鈿工房
おりはし
折橋治樹さん

クラウド会計の導入で業務効率化を実現

「とにかく会計業務に時間を取られていてね」

苦笑いする「螺鈿工房おりはし」の折橋さんは、高岡漆器を製造する伝統工芸士だ。日々、製品の納品や代金の請求といった会計業務があり、これまではエクセルで一件一件、手入力していた。金額が正しいかの確認に加え、仕訳が分からない場合はインターネットで検索。１カ月に１日は本業をストップし、事務作業にあてざるを得なかった。

「コロナウイルスの影響は大きく、コントロールできない。ただ業務の効率化なら自分のタイミングで始められる」

そう考え、商工会議所と相談して導入を決めたのが「マネーフォワードクラウド」だ。これはインターネット環境があれば簡単に使用できるクラウド型の会計ソフトであり、会計、銀行の入出金、クレジットカード処理などを一元管理することができる。

現在は、ネット銀行と連携することで、入出金データはすべて自動取得。勘定科目も提案してくれ、間違っていたとしても仕訳内容を修正すれば、次回にはAI が正しく反映してくれる。おかげで週末に1 時間ほど整理するだけで会計業務を回せているという。

目標はデータ分析から売上拡大へ

「最初は操作方法に戸惑うこともあったけど、慣れてしまうとこっちのほうがラクだわ」

折橋さんは会計だけではなく、請求書まわりも「マネーフォワードクラウド」に全面移行。システムが請求書、記帳、入金情報などを紐づけてくれるため、売掛金管理の手間が大きく減った。

「業務は効率化されたけど、数字を経営の指標としてどう活かすかはこれから。売上向上に繋げられるよう、分析ツールも使っていけたらいいよね」

逆境を契機にデジタル活用を決めた折橋さんの言葉は、最後まで力強かった。

螺鈿工房 おりはし
代表　折橋　治樹
富山県高岡市二上院内578-34
電話 23-8040 ＼ネットショップもやっています！／

▲ HPはこちら

折橋さんが導入した会計ソフトの詳細は
マネーフォワードクラウド　検索
＊商工会議所会員限定の割引制度あり

高岡商工会議所では小規模事業者に向けた**「ちょこっとDX!」**支援事業を展開中。デジタル化に関する相談のほか、セミナーや各種補助情報などを取りまとめ、メールマガジンでも発信しています。まだご登録をされていない会員企業の方は、ぜひご検討ください。登録はこちら▶▶▶

メルマガ
登録フォーム

★商工ビル３階ではマネーフォワードやリモートワークが体験できるブースも設置しています。
お気軽にお問い合わせください。

【 問合先 】　高岡商工会議所　中小企業相談所　TEL.23-5007　E-mail:soudan@ccis-toyama.or.jp